

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成 21 年 4 月 21 日（火）に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。

申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は国や他の自治体と比較することではなく、本市の教育施策の成果と課題の把握等の一つの指標とすることを考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

◎川崎市の教科別調査結果

1 市立学校教科別平均正答率

(%)	小学校（6年）		中学校（3年）	
	国語	算数	国語	数学
A問題	69.9	79.7	76.4	61.7
B問題	53.5	57.7	74.0	57.2

* A問題：主として「知識」に関する問題

B問題：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目（各教科 A、B 問題）のいずれの平均正答率も全国に対して ± 5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

◎各教科の概要（◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題のある点）

【小学校 国語】

本市の小学校国語の全体的な結果は、全国と同様の結果であり、A問題とB問題の差が 15 ポイント以上開いている。これは今回の調査問題の一部に全国的に平均正答率が極めて低いものがあること、B問題の形式に児童が慣れていないことなどが原因として考えられる。課題は存在するものの、全体的には全国との関係において国語の力は良好であり、記述式問題の正答率が高い。

話すこと・聞くこと

◇目的や意図が伝わるように説明するために、テキストから必要な情報を取り出すこと

◆自分の立場や意図を明確にして、条件に応じて話し合うこと

書くこと

◇実験報告文を書くために、文章の内容に合わせて小見出しを選ぶこと

◆報告文を読み、調べる内容を見通して必要な事柄を整理したり、目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書いたりすること

読むこと

◇図鑑を読んで段落の内容を的確にとらえ、メモの形式に書き換えること

◆文章を読み、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり、条件に応じて要約したりすること

言語事項

◇当該学年までに配当されている漢字を正しく読み書きすること

◆ローマ字の読み書きに関すること

【小学校 算数】

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国や県とほぼ同様な結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国や県の結果と同様、A問題に比べB問題の正答率が20ポイント以上低くなっているが、本市のB問題の正答率には全国に比べてやや良好な傾向が見られる。本市では校内研究で算数を行っている学校が多く、研究を通して基礎的・基本的な知識・技能の活用を重視した授業づくりに取り組んでいることがその一因ではないかと考えられる。

- 数と計算** ◇整数、分数の四則計算をすること
 - ◆与えられた情報を整理選択し、筋道立てて考えること
- 量と測定** ◇長さについての見当を立てること
 - ◆高さが図形の外にある三角形の面積を求めること
- 図形** ◇基本的な図形の定義や性質を理解すること
 - ◆長さを求めるために必要な情報を選択し、式に表すこと
- 数量関係** ◇資料を2つの観点で分類整理し、表を用いて表すこと
 - ◆割合の基準量と比較量を基に、割合の大小判断をすること

【中学校 国語】

本市の中学校国語の全体的な結果は、全国や県とほぼ同様の結果となっている。昨年度はA問題と比べてB問題の正答率に大きな差があったが、今年度は2.4ポイントとその差が縮まっている。今年度のB問題は、必要な情報を読み取ること、簡潔にまとめて書くこと、題材と関連付けて自分の考えを書くことなどを趣旨とした問題であるが、正答率はおおむね良好である。

- 話すこと・聞くこと**
 - ◇効果的なスピーチをするために話し方の工夫をすること
 - ◇話の内容から必要な情報を的確に聞き取ること
- 書くこと**
 - ◇自分の意見を伝えるために、適切な材料を選ぶこと
 - ◆自分とは異なる立場の意見を取り入れて、説得力のある文章を書くこと
- 読むこと**
 - ◇文章の展開に即して内容をとらえること
 - ◆短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと
- 言語事項**
 - ◆主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くこと

【中学校 数学】

本市の中学校数学の全体的な結果は、A問題に比べB問題の正答率が約5ポイント低くなっており、全国や県とほぼ同様の傾向を示している。これは、B問題が数量や図形の性質や方法を数学的な表現を用いて説明するなど、思考力や表現力を問う問題であったことによるものと考えられる。各問題を見た場合、基本的な計算問題、図形に関する基本的な知識や理解を問う問題については良好な状況といえる。一方、方程式をつくるために着目する数量を答えること、演繹的な推論の意義を理解すること、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することなどに課題が見られる。

- 数と式** ◇（ ）を含む正の数・負の数の計算及び単項式どうしの乗法の計算をすること
 - ◆方程式をつくるために着目する数量を答えること
- 図形** ◇三角形の合同の証明に必要な辺や角を答えること
 - ◆三角形の内角の和が 180° であることの証明について、帰納と演繹の違いに着目して正しいものを答えること
- 数量関係** ◇座標平面上に点の位置を示すこと
 - ◆蛍光灯と白色電球の総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を答えること

◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果より（抜粋）

○朝食を毎日食べている。	小学校	95.1%	中学校	89.9%
○自分にはよいところがあると思う。 . .	小学校	70.5%	中学校	55.9%
○将来の夢や目標をもっている。	小学校	83.0%	中学校	68.4%
○テレビゲームの時間が2時間以上（※） . .	小学校	24.5%	中学校	25.4%
○携帯電話の通話やメールをしている。 .	小学校	38.7%	中学校	73.1%
○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
◎2時間以上 .	小学校	35.1%	中学校	37.6%
◎30分以下 . .	小学校	22.0%	中学校	22.9%
○家で自分で計画を立てて勉強している。	小学校	54.4%	中学校	36.1%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と普段夕食を食べる。				
小学校	84.3%	中学校	77.4%	
○家の人と学校での出来事について話をしている。				
小学校	68.5%	中学校	56.7%	
○学校で友だちと会うのは楽しい	小学校	96.4%	中学校	94.3%
○学校で好きな授業がある。	小学校	93.3%	中学校	79.6%
○今住んでいる地域の歴史や自然に関心がある。				
小学校	39.9%	中学校	18.3%	
○近所の人にあいさつをしている。 . . .	小学校	85.8%	中学校	81.6%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。 .	小学校	90.3%	中学校	87.4%

- ・ 数値には「どちらかといえば」「時々」を含む
- ・ （※）印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、各学校が調査結果から明らかになった成果を更にものばしたり、課題の解決に向け取り組んだりできるよう、指導方法の充実・改善のための指導資料の作成や各種研究活動等を通じて啓発と支援に努めてまいります。

【問い合わせ】

教育委員会学校教育部指導課
指導課長 200-3284（内線 51301）

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

○調査の目的

- 1 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善のサイクルを確立する。
- 3 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

○調査の実施学年

小学校(特別支援学校小学部を含む)第 6 学年

中学校(特別支援学校中学部を含む)第 3 学年

○教科に関する調査

〔国語 A、算数・数学 A〕・・・主として「知識」に関する問題

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

〔国語 B、算数・数学 B〕・・・主として「活用」に関する問題

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容

・様々な課題解決のための構想を立てて実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

○児童生徒に対する質問紙調査

〔調査内容〕

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○調査実施日

平成 21 年 4 月 21 日 (火)

○教科に関する調査結果の概要

- ・本市では、小学校、中学校の国語、算数・数学それぞれの問題 A・問題 B において、いずれの平均正答率も、全国のものに対して±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差を認められないとする範囲内であるので、本市は全国と同様の結果であるといえる。
- ・学んだことを実生活で生かしていくことが求められるが、B 問題の調査結果を踏まえると、そのような学習場面の設定や授業展開が十分であるとは言い難い傾向がうかがえる。そこで、基礎的・基本的な知識・技能の習得だけでなく、それらを活用するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむことを目指した授業改善が今後一層求められる。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりであるが、領域ごとの考察については、個々の問題について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

「◇」印の問題：よい状況と考えられる問題。

「◆」印の問題：課題があると考えられる問題。

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。

(例) ■ローマ字で表記された単語を読んだり、ローマ字で書いたりする。

■実験報告文の内容に適した小見出しをとらえる。

■主人公の行動や心情を描写した文章の一部を読み、表現の工夫をとらえる。

■話し合いにおける司会者の進め方の良いところを説明する。

国語B 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。

(例) ■報告文に必要な事柄をメモに整理したり、調べて分かったことを書いたりする。

■話し手の立場や意図をとらえたり、自分の立場を明確にして発表したりする。

■説明的な文章の一部を読み、筆者の表現の工夫や考えをとらえる。

■話の組立てを工夫しながら、図を使って説明する。

○本市の傾向

本市の小学校国語の全体的な結果は、A問題、B問題ともに全国と同様の結果である。正答率においては、A問題とB問題の差が15ポイント以上開いている。これは、B問題の形式が児童にとってなじみが薄かったこと、その内容においては複数の領域に関わることなどが原因として考えられる。しかし、本市の正答率におけるA問題とB問題の差は全国に比べてやや小さい。

また、選択、短答、記述の3形式に分かれた問題形式別では、記述式の正答率が全国の正答率を上回っている。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

話すこと・聞くこと

司会の役割や働きをとらえて話し合いを計画的に進めることは、相当数の児童ができている。話し合いの場面においては、話し手の立場や意図をとらえて聞くことは相当数の児童ができていているものの、自分の立場や意図を明確にして話し合うことについては、相当数の児童に課題が見られる。話すために目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すことは、相当数の児童ができていている。

書くこと

実験報告文を書くことにおいて、文章の内容に合わせて小見出しを書くことは、相当数の児童ができています。一方、報告文を読み、調べる内容を見通して、必要な事柄を整理することについては、全国と同様の課題が見られる。また、目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くことについても、相当数の児童に課題が見られる。

読むこと

図鑑を読んで段落の内容を的確にとらえることは、相当数の児童が理解している。一方、文章を読んで筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりするなど、目的や意図に応じて自分の考えをまとめることについては、全国と同様の課題が見られる。

言語事項

出題された漢字の読みについては、相当数の児童が理解している。漢字の書きについても、相当数の児童が理解している。一方、ローマ字の読み書きについては、全国と同様の課題が見られる。

接続語を使って一文を二文に分けて書くことについては、全国より5ポイント以上上回ってはいるものの、相当数の児童に課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

話すこと・聞くこと

- ◇ (B) 目的や意図が伝わるように説明するために、テキスト（バスケットボールの作戦図）から必要な情報を取り出すことは、86.2%の児童が理解している。
- ◆ (B) 「そうじや整とんによく取り組んでいる」という自分の立場や意図を明確にすること、条件に応じることを踏まえて、話し合うことについては、全国と同様の課題がある。

書くこと

- ◇ (A) 理科の実験報告文を書くために、文章の内容に合わせて小見出しを選ぶことについては、90%前後の児童が理解している。
- ◆ (B) 報告文を読み、調べる内容を見通して必要な事柄を整理したり、目的や意図に応じて事象や意見などを関係付けながら書いたりすることについては、全国と同様の課題がある。

読むこと

- ◇ (A) 図鑑を読んで段落の内容を的確にとらえメモの形式に書き換えることについては、80.7%の児童が理解している。
- ◆ (B) 文章を読み、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり、条件に応じて要約したりすることに関しては、全国と同様の課題が見られる。

言語事項

- ◇ (A) 漢字の読みの問題では、出題された「混雑」（94.7%）「移る」（89.9%）「採集」（80.6%）について、相当数の児童が理解できている。
- ◇ (A) 漢字の書きについても、出題された「病院」「賛成」「運ぶ」について相当数の児童が理解している。
- ◆ (A) ローマ字の書きの問題では、出題された「kusuri」「tabemono」、読みの問題では出題された「happa」について全国と同様の課題が見られる。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■整数、小数、分数の計算、四則の混合した計算をする。

■数直線から数を読み取る。

■数を基にするもののいくつ分ととらえたり、四捨五入して概数で表したりする。

■長さの見当をつける。

■角の大きさをとらえ、分度器の目盛りを読む。

■三角形の面積を求める。

■四角形の内角の大きさの和を求める式を書いたり、基本的な図形の性質を用いて辺の長さを求めたり図形を選択したりする。

■割合を求め、百分率で表す。

■資料を分類整理して、表を用いて表す。

算数B 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■必要な情報を選択し、根拠となる図形の性質を基にして考える。

■示された解決方法を理解し、見方を変えた解決方法を考えて記述する。

■筋道を立てて考え、言葉等を使って重さの範囲を表現したり適切なものを選択したりする。

■グラフから必要な数量を読み取り、目的に応じて概数を用いる。

■カードの敷き詰め方をかき、調べた結果からきまりを見いだしたり、例を作ってそのきまりを確かめたりする。

■グラフの特徴を理解して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述する。

○本市の傾向

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国や県とほぼ同様な結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国や県の結果と同様、A問題に比べB問題の正答率が20ポイント以上低くなっているが、本市のB問題の正答率には全国に比べてやや良好な傾向が見られる。本市では校内研究で算数を行っている学校が多く、研究を通して基礎的・基本的な知識・技能の活用を重視した授業づくりに取り組んでいることがその一因ではないかと考えられる。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

数と計算

整数、小数、分数計算の四則計算は、相当数の児童ができています。また、数の相対的な大きさの見方や概数の表し方、偶数の意味など、数についての理解をみる問題の正答率も高い傾向にある。一方、小数の除法の計算や数直線の一目盛りの大きさを考え、それを基にして数を読み取ったり、与えられた情報を基にして筋道立てて考えたりすることに課題が見られる。

量と測定

身のまわりのものの長さの感覚が身に付いているかをみる問題の正答率は高く、おおむね良好である。しかし、与えられた情報を基にして面積を求めたり、時刻を選んだりすることに課題が見られる。

図形

長方形、直角三角形や平行四辺形の定義や性質についてはよく理解している。図形を見だし、長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表すことに課題が見られる。

数量関係

資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表すことは比較的よくできている。しかし、基準量と比較量を基にして割合の大小を判断し、その理由を記述することに課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

数と計算

- ◇ (A) 整数の繰り上がりのある加法、整数の除法「3位数÷1位数」、同分母の分数の減法の計算問題の正答率は良好である。
- ◇ (A) 数を四捨五入して千の位までの概数にしたり、整数の中から偶数を選んだりする問題も相当数の児童ができています。
- ◆ (A) 小数の除法「(小数)÷(小数)」の計算では、(3位数)÷(2位数)の計算技能、または、被除数と除数が小数であることに着目した小数点の移動に関する理解に課題がある。
- ◆ (B) 「与えられた条件で2種類の品物を買うとき、ハンカチを買うと他のものが買えないわけを書く」問題では、与えられた情報を整理したり選択したりして、筋道を立てて考えることに課題がある。

量と測定

- ◇ (A) 「千円札を長方形とみると、長い方の辺はどれくらいの長さかを選ぶ」問題は、相当数の児童ができています。
- ◇ (B) 「長方形の面積や辺の長さに着目して、カードの敷き詰め方を複数考える」問題は、相当数の児童ができています。
- ◆ (A) 「示された方眼を基にして鈍角三角形の底辺と高さの長さを導き出し、公式を用いて面積を求める」問題の正答率は62.3%で、無解答も13.4%と高い。高さが図形の外に表される三角形の求積に課題がある。
- ◆ (B) 目的の時刻までに着くバスの発車予定時刻を筋道立てて考え、時刻表から選択することに課題がある。

図形

- ◇ (A) 平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質は、よく理解できている。
- ◇ (A) 「長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ」問題の正答率は83.5%である。長方形や直角三角形の性質は、よく理解できている。
- ◆ (B) 「壁の高さを求めるときに階段を使って調べる問題」では、場面から図形を見だして、必要な情報を選択し、求め方を式に表すことに課題がある。

数量関係

- ◇ (A) 資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表すことは比較的よくできている。
- ◆ (B) 4月と6月の集めたものの全体の重さとペットボトルの重さを基にして、割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

中学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書く。

■効果的なスピーチをするために、話し方の工夫や話し方の展開の仕方の工夫をする。

■本文の展開や表現の仕方、特徴に注意して内容を正確に読み取る。

■話を聞いてメモをとる際に、必要な情報を的確に聞き取る。

■提案する文章を書く際に、自分の意見を伝えるために適切な材料を選んだり、自分とは異なる立場の意見を取り入れたりして、説得力のある文章を書く。

■目次の特徴や役割を理解し、目的に応じて必要な情報を集める。

■短歌の形式に従って意味をつかみ、内容について理解する。

国語B 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■案内図を見て内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明する。

■説明的文章の展開をとらえ、必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書く。

■詩を読んで、語句の効果的な使い方や表現上の特徴を踏まえて、写真と関連付けて自分の考えを書く。

○本市の傾向

本市の中学校国語の全体的な結果は、A・B問題ともに全国や県とほぼ同様の結果となっている。また、昨年度はA問題と比べてB問題の正答率が大きく下回ったが、今年度は2.4ポイントとその差が縮まっている。今年度のB問題では、日常生活や社会生活で必要とされる題材が多く出題された。具体的には、必要な情報を読み取ること、簡潔にまとめて書くこと、題材と関連付けて自分の考えを書くことなどを趣旨とした問題が出題されたが、これらに対する本市の正答率はおおむね良好である。

次に領域ごとの結果の概要を示す。

話すこと・聞くこと

効果的なスピーチをするために、話し方や話の展開の仕方を工夫すること、話の内容から必要な情報を的確に聞き取り、適切に質問することについては、相当数の生徒が理解している。

書くこと

自分の意見を述べるために適切な材料を選ぶことや、自分とは異なる立場の意見を取り入れて説得力のある内容を書くことについては、おおむね良好である。

読むこと

本文の展開や表現の仕方の特徴に注意して内容を正確にとらえたり、目次の特徴や役割を理解すること、必要な情報がどこにあるか見当をつけたりすることについてはおおむね良好である。しかし、短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことについては課題が見られる。

言語事項

主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことについては課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

話すこと・聞くこと

- ◇（A）効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること（89.4%）は、相当数の生徒ができています。
- ◇（A）話の内容から必要な情報を的確に聞きとること（92.9%）、聴いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し適切に質問すること（91.3%）については、相当数の生徒が理解している。

書くこと

- ◇（A）自分の意見を伝えるために適切な材料を選ぶこと、自分とは異なる立場の意見を取り入れて説得力ある文章を書くことについては、相当数の生徒ができています。
- ◇（B）文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くことについては、相当数の生徒が理解している。
- ◇（B）詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことについては、全国や県の正答率よりも上回っている。

読むこと

- ◇（A）本文の展開に即して内容をとらえることや本文の表現や特徴に注意して内容を正確に読み取ることについては、相当数の生徒が理解している。
- ◇（A）目次の特徴や役割を理解すること、目次を読んで必要な情報がどこにあるか見当を付けることについては、全国や県よりも高い正答率となっている。
- ◇（B）問題に示された資料の形式を自分の表現に役立てることについては、2つの設問とも全国の正答率とほぼ同じである。
- ◆（A）歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことや、古文と現代語訳とを対応させて内容をとらえることについては、全国の正答率よりやや下回る傾向が見られる。

言語事項

- ◇（A）適切な敬語・同音異義語・接続詞の選択については、相当数の生徒が理解している。
- ◇（A）文脈に即して漢字を正しく書くことに関しては、「遺産」（72.9%）と「磁石」（77.7%）については相当数の生徒が正答している。また、「補う」（51.4%）については、全国と同様の正答率である。
- ◆（A）主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことについては、全国と同様正答率が50%以下であり、「書くこと」にも関連し課題が見られる。

○調査問題の趣旨・内容

数学A 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■正の数と負の数の四則計算、文字式の計算をする。一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く。

■文字式の意味をよみとる。方程式をつくるために、数量の関係を2通りに表す。

■図形の性質を記号を用いて表す。

■事象の起こる確率を求める。

数学B 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■「紋切り遊び」でできる模様だけにみられる図形の性質を説明する。

■連続する3つの自然数からできる数の性質について成り立つ理由を説明する。

■蛍光灯と白熱電球の総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する。

■図形の性質を方針に基づいて証明したり、別の証明の方針を立てたりする。

○本市の傾向

本市の中学校数学の全体的な結果は、A問題に比べB問題の正答率が約5ポイント低くなっており、全国や県とほぼ同様の傾向を示している。これは、B問題が数量や図形の性質や方法を数学的な表現を用いて説明するなど、思考力や表現力を問う問題であったことによるものと考えられる。

各問題を見た場合、基本的な計算問題、図形に関する基本的な知識や理解を問う問題については良好な状況といえる。一方、方程式をつくるために着目する数量を答えること、演繹的な推論の意義を理解すること、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することなどに課題が見られる。

領域ごとの結果の概要を次に示す。

数と式

指数の計算、()を含む正の数・負の数の計算、単項式どうしの乗法、連立方程式を解くなどの表現・処理に関する問題については、相当数の生徒ができています。一方、等式を目的に応じて変形すること、一元一次方程式をつくるために、数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目することについては課題が見られる。

図形

空間図形における平面の位置関係、直角三角形の一边を軸として回転させてできる立体を選ぶ問題、円柱の展開図において円周の長さや側面の長方形の辺の長さの関係の問題については、相当数の生徒ができています。一方、同位角の位置にある角を選ぶ問題、証明の意義を理解しているかどうかをみる問題については課題が見られる。

数量関係

座標平面上の点の位置を示すこと、比例の関係を表した表を選ぶ問題、確率の意味に基づいて割合で比較する問題については相当数の生徒ができています。一方、反比例の表から式を求める問題、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては課題が見られる。

以下が、各領域における特徴的な結果である。

数と式

- ◇ (A) 「() を含む正の数・負の数の計算」「単項式どうしの乗法の計算」問題については、相当数の生徒ができています。
- ◆ (A) 「一次方程式をつくって問題を解決するために、問題場面の数量の関係をとらえ、2通りの式に表せる数量を答える」問題の正答率は36.3%である。問題場面に即して数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目することに課題がある。

図形

- ◇ (A) 2つの三角形が合同であることを判断する際に必要な辺や角の相当関係を指摘することについては、相当数の生徒が理解している。
- ◇ (A) 展開図で示された立方体について、2つの面の位置関係をとらえること、直角三角形の一边を軸として回転させた立体を選ぶ問題については、相当数の生徒が理解している。
- ◆ (A) 三角形の内角の和が 180° になることについて、実測や操作などの帰納的な方法による説明と演繹的な推論による証明の違いに着目して、証明の意義を理解することに課題が見られる。
- ◆ (B) 「2つの線分が平行になることを、三角形の合同を利用して証明する」問題の正答率は39.9%で、無答率は25.4%である。図形の性質を方針に基づいて証明することに課題が見られる。

数量関係

- ◇ (A) 「座標平面上に点の位置を示す」問題、「2種類の画びょうのどちらが上向きになりやすいかを実験結果から選ぶ」問題については、相当数の生徒が理解している。
- ◆ (A) 「反比例の表から式を求める」問題での正答率は35.1%である。反比例の表、式、グラフの関係についての理解に課題が見られる。
- ◆ (B) 「蛍光灯と白熱電球の総費用について、2つの総費用が等しくなるおよその時間を求める方法を説明する」問題の正答率は20.5%である。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

* 特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば・・・」や「時々・・・」と回答した割合も含む。

小学校 第6学年

1 基本的な生活習慣

- 毎日規則正しい生活を送っている児童が多い。
 - ・「ほぼ毎日朝食を食べている」児童は9割を超える。
 - ・「毎日ほぼ同時刻に起床している」児童は9割近くである。一方、「毎日ほぼ同時刻に就寝している」児童は7割程度であり、全国に比べて少ない傾向がある。

2 自尊意識

- ものごとを最後までやりとげた喜びを感じたことのある児童は多く、難しいことに進んで挑戦している児童も多い。その一方で、3割程度の児童が自分の良いところを見いだせていない。これは全国でも同じ傾向である。
 - ・「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」児童は9割を超える。また、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」児童は7割程度である。
 - ・「将来の夢や目標をもっている」児童は8割を超える。
 - ・「自分にはよいところがあると思う」児童が7割程度である一方、「よいところがあるとはまったく思わない」と、自己有用感をほとんど感じていないと思われる児童も1割近くいる。

3 生活の中での時間の使い方

- 平日（月～金曜日）には、半数以上の児童が午前7時までに起床し、午前7時30分までには9割以上の児童が起床している。一方、就寝時刻については、「午後10時以降」の児童が7割近く、「午後11時以降」も2割を超えており、全国に比べて遅い傾向がある。また、テレビゲームの実施時間やテレビ等の視聴時間も長く、携帯電話の利用率も高い。
 - ・「平日の睡眠時間が8～9時間」の児童が3割を超え、最も多い。また、8割を超える児童の睡眠時間が「7～10時間」である。
 - ・「平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間以上」の児童が7割近くであり、「4時間以上視聴」も2割を超える。
 - ・「平日のテレビゲームの実施時間が1時間以上」の児童が半数近くであり、「2時間以上」も2割を超える。
 - ・「平日のインターネットの実施」については、「まったくしない」児童がほぼ半数であり、している児童でも「2時間以上」は1割未満である。
 - ・「携帯電話で通話やメールをしている」児童が4割程度いる。そのうち、「毎日している」児童は2割近くであり、いずれも全国に比べて多い傾向がある。
 - ・「平日の読書時間」については、「まったくしない」児童が2割を超え、「30分以内」が4割程度であり、全体的に少ない傾向にある。また、4割を超える児童が「学校の図書館・室や地域の図書館に、ほとんど、またはまったく行かない」としている。

4 家庭でのコミュニケーション

- 平日に家の人（兄弟姉妹は含まない）と夕食を一緒に食べている児童は、全国と比べて若干少

ない状況にある。また、家族それぞれに生活スタイルがあり、夕食以上に朝食と一緒に食べていない傾向もうかがえる。これは、全国と同じ傾向である。

- ・「家の人と夕食と一緒に食べている」児童は8割を超える。一方、「朝食と一緒に食べている」児童は6割近くである。
- ・「家の人に学校での出来事を話している」児童は7割近くであり、「家の手伝いをしている」児童は7割を超える。
- ・携帯電話の所有率は45.7%であり、全国の30.0%に比べて高い。所有者のうちの8割を超える児童が「携帯電話の使い方について家族と約束ごと」をしており、ほとんどがその約束を守っているとしている。

5 家庭での学習状況

○平日や休日に勉強をしたり、学習塾に通ったりする児童は多い。「学校の宿題をしている」児童は9割を超えるが、学校の授業の復習や予習にはあまり取り組んでいない傾向がある。

- ・「学習塾（家庭教師を含む）で勉強している」児童は6割程度で、全国に比べて多い傾向がある。また、学習塾（家庭教師を含む）で「学校より難しい内容・進んだ内容を勉強している」児童が3割を超え、これも全国に比べて多い傾向がある。
- ・「平日、学校の授業以外に3時間以上勉強している」児童は2割を超える。その一方で、「30分より少ない」という児童も2割程度と、ほぼ同数である。また、「休日（学校が休みの日）、4時間以上勉強する」児童は2割近く、「全くしない」児童も2割近くと、これもほぼ同数である。「学校以外の学習時間」には、児童による差が見られる。
- ・「家で計画を立てて勉強している」児童は5割を超えるが、「学校の授業の予習、復習をしている」児童はいずれも3割程度であり、全国に比べて少ない傾向がある。

6 学校での楽しみ

○学校で友だちと会うことを楽しいと感じている児童、好きな授業がある児童は多く、全国でも同じ傾向である。

- ・「学校で友だちと会うことが楽しいと感じている」児童、「学校で好きな授業がある」児童はいずれも9割を超える。

7 社会への関心・地域への関心

○今住んでいる地域の行事への参加、自然や歴史に対する関心は低い傾向がある。

- ・「新聞やテレビのニュースに関心がある」児童は7割近くで、全国とほぼ同じ傾向である。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童は4割を超える。また、「住んでいる自然や歴史に関心がある」児童も4割程度であり、いずれも全国に比べて少ない傾向がある。

8 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

○きまりやあいさつ、思いやりの大切さを理解し、周囲へ貢献したいという気持ちをもっている児童が多い。

- ・「学校のきまりをいつも守っている」児童は8割程度であり、「友だちとの約束を守っている」児童は9割を超える。
- ・「近所の人に会ったときに、あいさつをしている」児童は8割を超える。
- ・「人が困っているときに進んで助けている」児童は7割程度である。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思っている」児童、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」児童、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童は、いずれも9割程度である。

1 基本的な生活習慣

○ほぼ毎日朝食を食べている生徒は多い。一方、3割を超える生徒が定時に就寝しておらず、全国に比べても若干高い傾向がある。

- ・「ほぼ毎日朝食を食べている」生徒は9割程度である。
- ・「毎日ほぼ同じ時刻に起床している」生徒は9割程度である一方、「毎日ほぼ同時刻に就寝している」生徒は6割を超える程度である。

2 自尊意識

○多くの生徒が将来の夢や目標をもっていたり、ものごとを最後までやり遂げた達成感を感じたりしている。一方で、自分のよさを見いだせていない生徒が4割を超えており、全国に比べて多い傾向がある。

- ・「将来の夢や目標をもっている」生徒は7割程度である。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」生徒は9割程度である。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」生徒も5割を超えている。
- ・「自分によいところがあると思う」生徒が5割を超えている一方、「自分によいところがあるとはまったく思わない」と、自己有用感をほとんど感じていないと思われる生徒も1割を超える。

3 生活の中での時間の使い方

○夜型の生活をしている生徒が多い。さらに、テレビ、テレビゲーム、インターネットや携帯電話などに多くの時間を費やしている傾向もうかがえる。一方、家庭や図書館で読書をする生徒は少ない傾向がある。

- ・「平日に午前0時以降に就寝する」生徒は3割を超え、「午前1時以降」の生徒も1割程度いる。
- ・「平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間が2時間以上」の生徒が7割程近くであり、「4時間以上視聴」も2割を超える。
- ・「平日のテレビゲームの実施時間が1時間以上」の生徒は4割を超えており、「2時間以上」も2割を超える。
- ・「平日のインターネットの実施」については、「まったくしない」生徒、「1時間未満」の生徒がいずれも3割程度である一方、「2時間以上」の生徒が2割程度いる。
- ・「携帯電話で通話やメールしている」生徒は7割を超え、「毎日している」生徒も4割を超えており、いずれも全国に比べて多い傾向がある。
- ・「平日の読書時間」については、半数程度の生徒が「まったくしない」、「30分以内」が3割程度であり、全体的に少ない傾向がある。また、7割程度の生徒が「学校の図書館・室や地域の図書館に、ほとんど、またはまったく行かない」としている。

4 家庭でのコミュニケーション

○平日に、家の人（兄弟姉妹を含まない）との食事や会話をはじめとする「家族とのふれあいの時間」が少ない傾向がある。

- ・「家の人と夕食を一緒に食べる」生徒は8割近くいるが、「朝食を一緒に食べる」生徒は4割程度である。
- ・「家の人と学校の出来事について話している」生徒は5割を超える程度であり、「家の手伝

いをしている」生徒も6割程度である。

- ・携帯電話の所有率は77.9%であり、全国の56.8%に比べて高い。所有者のうちの7割程度が「携帯電話の使い方について家族と約束ごと」をしており、そのうちの8割程度が「その約束を守っている」としている。

5 家庭での学習状況

○学習塾に通う生徒が比較的多いが、家庭で「学校の宿題以外の学習」をしている生徒が少ない傾向がある

- ・「学習塾（家庭教師を含む）で勉強している」生徒は7割程度で、全国に比べて多い傾向がある。また、学習塾（家庭教師を含む）で「学校より難しい内容・進んだ内容を勉強している」生徒が2割を超えており、これも全国に比べて多い傾向がある。
- ・「家で学校の宿題をしている」生徒は7割を超えているが、「家で計画を立てて勉強している」生徒は3割を超える程度である。また、「学校の授業の予習をしている」生徒、「復習をしている」生徒はいずれも3割に満たない。
- ・「平日、学校の授業以外に3時間以上勉強している」生徒は1割程度、「2時間以上勉強している」生徒も4割近くいる一方で、「30分より少ない」生徒が2割を超える。また、「休日に全く勉強しない」生徒も2割を超える。

6 学校での楽しみ

○学校で友だちと会うことを楽しいと感じている生徒が多い。

- ・「学校で友だちと会うことが楽しいと感じている」生徒は9割を超える。
- ・「好きな授業がある」生徒も、小学生に比べると少ないものの、8割程度いる。

7 社会への関心・地域への関心

○社会の出来事に関心はあるが、今住んでいる地域の歴史や自然に関心のある生徒は少ない。

- ・「新聞やテレビのニュースに関心がある」生徒は6割を超え、全国とほぼ同じ傾向である。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒は3割未満、「住んでいる地域の歴史や自然に関心のある」生徒も2割未満であり、いずれも全国に比べて少ない傾向がある。

8 道徳性（規範意識・礼儀・思いやり）

○規範意識や人に対する思いやりをもち、周囲に貢献したいという気持ちがある生徒が多い。また、近所の人とのあいさつができている生徒も多い。

- ・「学校の規則を守っている」生徒は8割を超え、「友だちとの約束を守っている」生徒は9割を超える。
- ・「近所の人に会ったとき、あいさつをする」生徒は8割程度である。
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」生徒は6割を超える。
- ・9割近くの生徒が「人の役に立つ人間になりたい」、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と思っている。また、9割の生徒が「人の気持ちが分かる人間になりたい」と思っている。